

体育

小学校 第6学年

OS・ソフト等

- iPad
- ロイロノート

<単元・題材名等>

器械運動 跳び箱運動

ねらい

より大きく美しい動きを目指し、5つの動き（助走・踏切・着手・空中姿勢・着地）のレベル表を基に、自己の課題を見つけることができる。また、その課題に合った適切な場を選択して練習することができる。

主なICTの活用方法

- ・ 協働学習支援ツール（ロイロノート）を用いて、自分の動きを動画で撮影する。
- ・ 前時の動画から課題点を見つけ、スクリーンショットで抜き出し、本時のまとめの動画に貼り付けることで、課題改善の比較をする。
- ・ 画面共有で仲間のまとめの動画を確認し、よさを共有する。

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ 資料から必要な課題を見付けることができる。
- ・ 根拠を明確にして適切な場を選び、練習に取り組むことができる。
- ・ 自己の変容に気付くことができる。

実践の概要

【単元の構成】

1・3・6時間目においては、ICT端末で撮影した動画を用いて、自分の動きを確認し、動きレベル表や提示資料を基に、学習課題に対する動きの到達度を3段階で自己評価する。2・4・5時間目においては、前時における自分の動きを基に課題を見付け、自己の課題を解決するために練習を進め、より大きく美しい動きを目指す。7時間目においては、3つの技の中から1つを選択し、既習の視点から発表会をする。

【本時（4/7）】

導入では、児童が課題をつかむことができるように、前時の自己の演技を動画で確認するとともに、学習カードに記載されている5つの動きのポイントを視点に自分の解決したい課題を明らかにする。さらに、板書で示されている練習場所から選択し課題解決を目指す。

練習時間では、5つの動きのポイントを視点に自分の姿を撮影し振り返ることで、よりよい動きの追究につながるようにする。

児童の学びの様子

- 前時の動きについて、動画をスローで再生するなどして分析することで、本時改善したい課題を見付けることができた。自分の課題が明らかになったことで、課題解決しやすい練習場所を選択することができた。
- 自分で選択した練習場所で、自分の動きを撮影することで、課題解決の過程や状況を確認することができた。
- それによって、練習場所の変更や意識する動きのポイントの修正など、よりよい動きを追究しようと、自らの学習を調整することができた。



指導のポイント

- 5つの動き（助走・踏切・着手・空中姿勢・着地）を視点として、前時の動きを視聴する。
- 自己の課題解決の過程を記録することで、児童の学びに向かう関心・意欲を高めるようにする。